

模庵白純大和尚と光真寺

善光寺開山・模庵白純大和尚は昭和五十四年二月四日に世寿八十二歳で遷化せられ、本年二月十日、十七回忌法要が厳修されました。十七回忌に因み、模庵白純大和尚と光真寺（善光寺の本寺）、また、『模庵白純大和尚』（昭和五十七年十月一日発行、光真寺刊）より、
〈模庵白純大和尚を偲んで〉二篇を特別掲載します。

模庵白純大和尚

白純大和尚は明治三十一年（一八九八）三月十五日、黒田駒藏・タカの次男として栃木県宇都宮市にて出生。四歳（明治三十四年）の時、父が死去。その後母が大田原の光真寺三十四世服部愚白和尚と再婚（明治四十年）したので、以後愚白和尚の弟子として育てられました。明

治四十一年十二月、光真寺の失火で寺町大久保町が大火となり、山門だけを残して寺のほとんどが焼失。その頃の愚白和尚は老齢に加えて白内症にて目を病み、住職として勤めも思うに任せず、さりとてタカ女との子もまだ幼少で、寺は慘澹たる有様でした。そこで永平寺で修行を積んだ白純和尚が光真寺三十六世住職に任せられたのです。大正十一年二十四歳の時でした。

翌年、仮本堂を新築、大正十四年に前角嘉（黒田方丈の母堂）と結婚。翌年には長男が出生（五歳で死亡）、男子八人をもうけました。

の寄りつかない殿様寺だったとは、当時のことを知らない人にはとても信じられないだろう」とは古老人の語る言葉です。

白純大和尚の一生は、寝ても覚めても「まず寺の復興を」と、人集めと寺の繁栄に努力を惜しませんでした。七人の子どもは五人が住職、一人が会社重役、一人が大学教授、弟子や随身を入れると実に三十有余名。米国・ロスアンゼルス仏真寺、横浜市成寿山善光寺（黒田武志住職）、栃木県那須寺、がいづれも建立開山、東京都大田山別院桐ヶ谷寺は中興開山です。光真寺の末寺はそれまで四カ寺に過ぎませんでしたが、前記の四カ寺に他に二カ寺を末寺に加えたので十カ寺となり、それぞれ弟子を住職にしていました。「人づくり、寺づくりの名人」と評される所であります。本寺の光真寺は伽藍整備も整い、本堂、庫裡、地蔵堂、大黒殿等々、管内寺院最大の規模を誇る輪奐の美を造り上げ、「これがかつて人

生前の要職は、大本山總持寺顧問会会長、總持寺副監院、大本山總持寺復興局長、全日本仏教会事務總長、曹洞宗審事院院長、曹洞宗宗議會議員、駒澤大学駒澤会会長、國際佛教興隆会常任理事、日本宗教連盟參議、栃木県仏教教会会長、等を歴任、大本山總持寺から西堂位を追贈されました。（順不同）

曹洞宗大教師、黃恩衣、赤紫衣の位を授与せられて います。

光真寺縁起

光真寺は山号を大田山と称し、大田原家の菩提寺として天文十四年（一五四五）に創建された禅刹です。

大田原家中興の祖である第十三代資清公は宿

敵黒羽大閥家を破り、城を中田原水口から大田原龍体山に移して大田原藩の基盤を確立すると共に、両親の菩提を弔うために寺堂の建立を企画し、四時に靈山靈域を探させ、ついに西方に巨木鬱蒼とし、風無きに枝は鳴り、水深く湛えた蛟龍の潜む深淵の如き幽池あるを知り、直ちに七堂伽藍を建立しました。そして資清公の実兄で、永平寺で修行され高徳の聞え高かつた塩谷郡川崎の長興寺の麟道大和尚を拝請して開山第一世とし、寺号は父の法号「明庵道光」の光の字と、母の法号「眞芳妙觀」の真の字をとり命名したといわれます。爾来四百五十年、第三十七世光純（善光寺方丈の長兄）に至つています。

光真寺は開山以来三百石を拝領し、第二十世一時絶海大和尚の時代に五百石に加増され、明治四年の廢藩置県に至るまで三百三十年間は藩主の菩提寺として裕福な寺院でしたが、明治以

後の百二十年は波乱の時代でした。戊辰戦争で火災に遭い、明治四十一年の寺町大久保の大火で再び全山消失してしまいましたが、第三十六世模庵白純大和尚の代になり、現在の光真寺の見事な再興が果たされました。

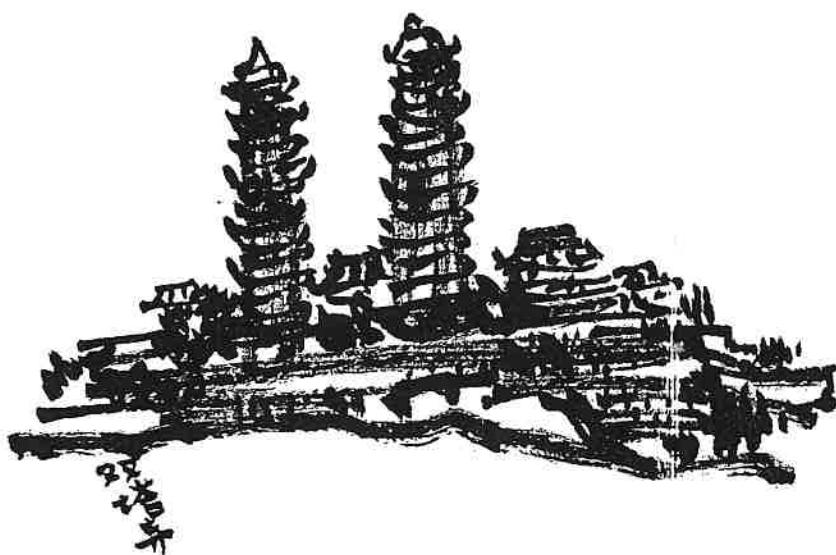
光真寺の建造物のうち、本堂は昭和八年に起工し竣工まで十カ年を要し、総けやき造りでの雄大さは当山随一です。鐘樓堂は度重なる火灾に遭い、現在のは五百貫（約一八七kg）の大梵鐘を具した總けやき造りで、模庵白純大和尚住寺五十年を記念して建立され、正面の桁には大田原市名誉市民関谷充氏寄贈の銅製の龍があり、「龍城の鐘」と称せられ「北関東隨一」の名声を博しています。研修道場・檀信徒会館は一、二階に百畳敷の広間があり、集会、研修宿泊等に広く解放されています。その広さと機能性においては近隣に比類無いものです。以上三つの建物は今日の光真寺を代表するものです。

本堂裏手には龍体山が連なり、山腹に数百本の紫陽花が植えられ、その紫陽花に包まれるようく世界平和を願う平和地蔵尊が奉安されています。

本堂西側の一段高い境内地には大田原城主靈廟が有ります。開基第十三代資清公は自らの廟を伽藍裏手の龍体山山腹光龍台に定め、爾来歴代城主とその妻子、第二十八代勝清公まで代々光龍台に葬られましたが、昭和に至り廟の風化損傷がひどく、昭和十五年に現在地に遷しました。廟は全て那須芦野石製の宝筐印塔型の大石塔で、大田原家の繁栄と豊かさを忍ばせ、市指定の重要な文化財となっています。

開山歴住大和尚

開
二世翁
三世台
花岳山
昌馨
開山
世台山
花岳山
和尚
和尚
和尚
和尚



四世五世六世七世八世九世十一世十二世十三世十四世十五世十六世十七世十八世十九世二十世二十一世

何か 一いち如によ 大たい海かい 大たい雲うん 泰たい明みょう 善せん國こく骨こう財さい梅まい電でん北ほく月げつ大たい國こく時じ得と峯ほう岸がん林り耕こう道どう觀かん相そう心しん庵あん峯ほう庵あん堂どう岸がん百やひ絶ぜ龍りゅう全ぜん慈じ江こう先せん梅まい海か三さん林りん普ふ電でん長ちよう呑どろ祖そ堂どう素そ川せん海かい水すい龍りゅう雲うん道どう端はず獄獄てん譽よう的てき哲づ了なん孝こう南なん岳がん蓮れん

大和尚 大和尚 大和尚 大和尚 大和尚 大和尚 大和尚 大和尚 大和尚 大和尚

三七世 三六世 三四世 三五世 三三世 三二世 三一世 二九世 二八世 二七世 二六世 二五世 二四世 三三世

大和尚 大和尚 大和尚 大和尚 大和尚
大和尚 大和尚 大和尚 大和尚 大和尚

大和尚



金瓶梅